

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

1面 開設迫る！井の頭キャンパス
4学部の教育連携
グローバル教育 26年度実績と今後の展開
高大連携のための教育行事
自治体と連携「ポッチャ」講座開催へ

3面 杏林年代記 (10) さようなら八王子キャンパス

4面 杏林見聞録⑤ 総合政策学部 三浦秀之講師

5面 卒業生、在学生リレー
国産旅客機MRJ開発に携わる 中崎篤志さん
保健学部 大井遥香さん

クラブ・サークル紹介
6・7面 学部・大学院トピックス

8面 金田一教授の研究室から
健康ひとくちメモ、数字でみる杏林大学

開設迫る！井の頭キャンパス

4学部の教育連携 科目の共有化へ検討進む

杏林大学は、八王子キャンパス3学部の井の頭キャンパスへの移転を契機に、新たな教育方針の柱の1つに「4学部の距離が近づき、広がる学びの道」を定め、来年4月の移転を前に、近接する三鷹キャンパスの医学部と合わせた4学部の教育連携について検討を進めています。

具体的な教育連携として、1年次に各学部でそれぞれ行っている科目「地域と大学」

の一部を、4学部生混成で行う案が固まりつつあります。

また、4学部の1年生を対象に、各学部の科目を他学部生にも開放する共通選択科目（杏林推奨科目）を金曜日に配置して、“金曜日は4学部交流 Day”とする計画が進められており、キャンパス移転に伴い医学・医療系と人文・社会科学系の融合教育が大きく前進することになりそうです。



4学部で1年生を対象に行われている授業「地域と大学」では、学生が地域を学び、地域の課題を探り、その解決策を導き出す。なかには、地域との関わり方や自身の役割が明らかになることで、学生生活の様々な面で積極性があらわれる学生もいる＝医学部「地域と大学」調査発表の様子

“4学部生がともに学ぶ” 1年生の授業「地域と大学」で実施へ

杏林大学が文部科学省による平成25年「地（知）の拠点整備事業」に採択され、3年目を迎えます。

本学の活動テーマは、「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」です。具体的には、連携する東京都三鷹市・八王子市・羽村市とともに、「都市型高齢社会の健康と安心」をめざして、学部の特色を活かした様々な地域交流活動をとらして教育・研究・社会貢献活動の強化を図っています。

完成度を高めた「地域と大学」2年間の取り組み

教育における地域志向化を進めるために、平成26・27年度は、地域と協働で地域課題に取り組む、4学部の1年生を対象とした「地域と大学」という新しい科目を開講しました。

【医学部】

学生はグループ（7、8人で構成）に分かれ、各グループが「三鷹市の医療・福祉」に関する課題を見つけ、その解決策を導き出します。実際に三鷹市内の施設を訪問することが課せられるため、基

礎知識の確認に加えて、グループワークやフィールドワーク、調査結果を発表する力などの要素が加わるなど、学生には総合的な力が求められます。

【保健学部】

保健学部は、各学科の基礎的な必修科目に「地域と大学の関わり」を知る内容を盛り込み、大学での学びと卒業後の進路において、地域がどのように関わってくるのかを学ぶきっかけとなりました。

これら2学部においては、地域社会と自らが学ぶ専門分野とのつながりを認識するきっかけとなったこと、地域貢献を視野に入れた卒業後の方向性が示されたことが教育効果として挙げられます。

【総合政策学部・外国語学部】

両学部の複数の教員および先輩学生が指導にあたり、連携する3市の市役所および両学部の教員から当該地域の概要と地域課題に関するレクチャーを受けた後、グループ（6人で構成）に分かれて市役所から提示された「演題」に関する解決策提示の作業を行います。そして、最終的にはランダムに選ばれたグループが、

解決策を皆の前で発表します。これらのことを通じて、地域課題を題材とした課題解決手法の基礎を習得していくというものです。

このように2年間の取り組みを通じて、「地域と大学」は各学部における地域志向教育の基盤科目として、その完成度を高めてきました。

28年度さらなる充実を図る「地域と大学」

来年度、井の頭キャンパスが開設することで、教育・研究機能が三鷹の地へ統合されることを契機に「地域と大学」を総合大学の特色ある学際的な教育の一つとして進めていきます。現在、内容や講義運営面における4学部の連携・融合の可能性について次の2点の検討を進めています。

①科目内容の一部共通化

平成28年度の「地域と大学」は、全15回（一部全8回）の講義を前期毎週金曜日に開講し、4学部の1年生が井の頭キャンパスで受講することになります。

基本的に講義の内容は、各学部で行われている地域志向科目がベースになりますが、15回の講義のうち3回程度は、内容を共通化した上で、4学部混成クラスを編成し、実施します。この3回の講義では、同じ教室で4学部の学生が共に学ぶことになります。

この3回の講義は、複数学部の教員や先輩学生の指導のもと、①連携自治体（三鷹市・八王子市・羽村市）市役所の職員を講師に招き、地域の基礎情報や大学との連携について学ぶ講義、②グループによる討議、③グループ発表など、4学部に通ずる基礎的な内容で構成されます。「地域の課題解決のために、最善解を導くことができる」ことは、すべての学部学生にとって必要な力です。

これを各学部が単独で行うのではな

1年生前期講義（案）

所属学部での講義

- ・医学部
- ・保健学部
- ・総合政策学部、外国語学部（28年度、文系2学部は合同で実施）

それぞれに、地域志向教育の基盤を学ぶ

混成クラスでの講義（3回）

- ・連携市を学ぶ
- ・グループ討議
- ・グループ発表



グループワークの様子。授業が、他学部の学生と混成クラスで行うようになれば、異なる考えや新しい発想が生まれてくるに違いない

く、4学部混成クラスで行うことによって、自らが選んだ専門分野以外の視点に触れることになり、学生たちの視野が広がるのが期待されます。

また、1年生の前期(春学期)という早い段階で4学部の学生が同じ井の頭キャンパスの教室で学ぶことは、広い人間関係や杏林大学生としてのアイデンティティの形成につながります。このことは、今後の大学生活を送る上で、有益な機会になると期待しています。

②他学部履修の第一歩に

現在、ポール・スノードン副学長を中心として、各学部から他学部の学生が履修できる科目を提示し、学部連携教育の科目として位置づけることを検討してい

ます。各学部で行われている「地域と大学」は、科目内容や手法に共通点が多く、地域という共通テーマを取り扱う点においても取り組みやすく、他学部の科目を履修する手がかりとなります。このようなことから「地域と大学」は、学部を越えた学際的な授業を進める第一歩として、最も適した科目といえます。

「地(知)の拠点整備事業」において重要視されている“教育の地域志向化”を進めるためにも、「地域と大学」の一層の充実発展を進めていきたいと考えています。

(地域交流推進室長 古本泰之)

“金曜日は4学部交流 Day”

1年生共通の選択科目の検討進む

他学部履修の運用 選択科目としての「推奨科目」

「地域と大学」の他にも、医学部を含む1年生を対象にした共通の選択科目(杏林推奨科目)を来年度開講することが検討されています。

具体的には各学部がいくつかの授業を他学部生も履修できるようにするもので、専門分野以外の学びにより、広い知識を身につけ人間的な幅を広げようというねらいです。

各学部からは推奨する科目としてこれまでに1ないし3科目が提示されています。

医学部からは「臨床医学入門」(医療科学A)が、保健学部からは救急救命学科の「救命救助法」と健康福祉学科の「基礎数学」が、総合政策学部からは「社会福祉政策論」と来年度開講予定の「生活と法」及び「政治心理学」が、外国語学部からは「日本語学概論」と「アジア・ホスピタリティ」がそれぞれ示されています。

この計画を中心になって推進しているポール・スノードン副学長は「各学部の推奨科目を金曜日に集中して開講し、全学部1年生の交流Dayにしたい」と話しています。

推奨科目などについてさらに検討したうえで、今秋予定されている理事会等を経て来年度から実施される見通しです。

語学サロンとライティングセンターの利用拡大を図る

八王子キャンパスから移設する「英語・中国語サロン」や「ライティングセンター」の全学的な活用や「eラーニング」の利用拡大についても早急に検討を進めることになっています。

平成22年度からの杏林大学第2次中期計画により、各学部の必修科目の中で他学部の専任教員が講義をする「学部間連携科目」で始まったいわゆる教育融合の試みは、井の頭キャンパスの開設でまた一歩前進することになります。

文部科学省支援事業成果報告

海外留学者数、目標を大きく上回る ループリックで成長過程 可視化へ

外国語学部を中心とした構想で採択された文部科学省補助事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」(5カ年)。中間年度となった平成26年度の実績は概ね順調に推移しています。

25人が外国語力 スタンダードを到達

本学では外国語力スタンダードとして、英語・観光交流文化学科ではTOEIC®800点以上・中国語検定4級もしくはHSK2級以上、中国語学科は中国語検定2級もしくはHSK5級以上・TOEIC®500点以上を設定し、

25年度 実績/目標	26年度 実績/目標	27年度 目標	28年度 目標
6人/10人	25人/15人	30人	40人

卒業時達成目標人数を定めています。少人数クラスの授業や外国語学部が開発した語学教材の改訂、語学サロンの活用などが効果を上げ、26年度は目標を上回る25人がスタンダードを達成しました。

4学部 170人が留学

24年度 実績/目標	25年度 実績/目標	26年度 実績/目標	27年度 目標	28年度 目標
97人/110人	135人/127人	170人/136人	147人	162人

26年度に留学した170人の留学者の内訳は次の通りです。

期間は、3か月未満が93人、3か月以上1年未満が77人。協定等に基づき派遣されたのは49人。国・地域別では、多い順に米国44人、英国34人、豪州26人、カナダ23人、中国19人などでした。特筆すべきは、医学部6年生100人のうち25人が海外の大学病院等で実習を行った

ことです。海外協定校は26年度は49校でしたが、今年4月にマレーシアのニライ大学と協定を締結し、最終目標の50校に達しました。

一方、本学で学ぶ外国人留学生は大半が中国語圏の学生です。日中関係等の影響を受け、伸び悩みが続いていますが、今後も中国等の協定校からの交換・派遣留学生を中心に受け入れ拡大を図ります。

交渉能力の評価・測定に グローバルループリックを開発

卓抜した語学力とスマートでタフな交渉能力を身に付けた「グローバル人材像」を次の5項目に大別し、語学検定試験やループリックによる測定・評価を行います。

- ① 卓抜した語学力(日中英トライリンガル)
- ② 知識・理解、汎用的技能(学士基礎力)
- ③ コミュニケーション能力
- ④ 異文化理解とグローバル的視野
- ⑤ リーダーシップ・コンピテンシー

ループリック評価は毎年行うため、学生の4年間の成長過程を可視化できます。

「ループリック」助言をいただきました。本学が全国の大学の中でグローバル・リーダーとしての役割を果たせるよう取り組んでいきます。グローバル人材育成プログラム推進委員会

第6回グローバルシンポジウム「海外留学の促進と成果」

日時:平成27年10月17日(土) 13:00~16:00

場所:八王子キャンパス・D棟108教室

[1部]海外留学の報告 [2部]海外研修参加報告 [3部]第三者評価委員による講評・総括

詳しくは
ホームページを



グローバルに活躍したい高校生の成長を促進

本学の基本構想、「日英中トライリンガル育成のための高大接続」が、平成26年度「大学教育再生加速プログラム」に採択されました。

これまで築いてきた高大連携を基盤として、グローバル人材育成に積極的に取り組んでいる高等学校との高大連携・高大接続を進めることで、グローバルに活躍したい志を持つ若者の成長を支援しています。

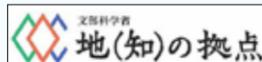
高大接続推進委員会



保健学部生体検査学研究室の相磯聡子准教授の指導で行われたDNA関連技術演習

26年度に実施した教育行事

高校	【教育行事名】内容	本学で対応した学部
順天高等学校	【DNA関連技術演習】 豪州生物医学研究機関での研修に備え、実験器具の使い方と医療英語の基礎を学ぶ	保健学部
関東近隣の9校	【日英中トライリンガルキャンプ】 本学の学生(留学生含む)と共に英語・中国語を演習等から学ぶ1泊2日のプログラム	外国語学部 総合政策学部
協定高校他7校	【IELTS対策講座・受験】 英語検定試験対策講座の開放と検定試験の受験	外国語学部
聖徳学園高校	【脳波の記録・測定に関する体験講義】 脳のしくみや脳波測定に関する講義を受け、脳波計を使った実習を行う	医学部



自治体と連携「ボッチャ」連続講座 開催

「ボッチャ」は障がい者向けに考案された競技で、パラリンピックの正式種目です。白い目標球に赤・青6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりしていかに近づけるかを競います。

競技は、高齢者も楽しめるスポーツであることから、COC=「地(知)の拠点整備事業」のテーマ“都市型高齢社会における健康寿命の延伸”の一環として、杏林CCRC研究所が中心となって連続講座を開催します。

講座は9月12日から10月3日までの毎週土曜日に開催し、ボッチャの地域への普及をめざします。講座参加者には今後の普及活動の核になってもらうため、本学の教員と学生、本事業で連携している三鷹市などの職員等の他、公募市民を対象とします。

かねてからボッチャの高齢者スポーツとしての可能性に着目し、学生とともに普及に努めてきた保健学部理学療法学科の芝原美由紀教授は「ボッチャは競技としての奥深さがあります。地域の方にもこの楽しさを、知ってもらいたい。2020年の東京パラリンピックにむけ、取り組んでいきたい」と話しています。

杏林CCRC研究所



学園創立50周年へ

杏林年代記 [10]

特集 さようなら八王子キャンパス

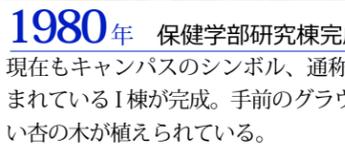
八王子キャンパスが開校して40年。この間、保健学部の開校から社会科学部（現 総合政策学部）、外国語学部の開設と続き、これまでに2万人を超える人たちがこの地で学び、様々な学生生活を過ごして巣立っていきました。井の頭キャンパスへの移転まであと半年、八王子キャンパスの出来事を振り返り、ゆかりの深い方々に思い出を語っていただきました。

八王子キャンパスの主な出来事

1975年	5月	開校式
1979年	4月	保健学部開設
1979年	5月	保健学部研究棟（時計塔）完成
1980年	5月	グラウンド完成
1984年	4月	社会科学部、保健学研究科保健学専攻博士前期課程（86年博士後期課程）開設
1984年	12月	大学直直通学バス開通
1985年	12月	松田記念館（体育館）完成
1988年	4月	外国語学部、別科日本語研修課程開設
	6月	留学生交歓パーティ開催
	10月	3学部となり初めての「杏園祭」開催
1991年	3月	ガーデン丘 完成
	8月	初めてのオープンキャンパス
1992年	4月	外国語学部校舎E棟 完成
1993年	4月	国際協力研究科国際開発・国際文化交流専攻博士前期課程（95年開発問題専攻博士後期課程）開設
1994年	4月	保健学部看護学科開設
	9月	保健学部校舎K棟 完成
1996年	3月	八王子キャンパスで初の卒業式挙行
2000年	10月	メキシコ第50代大統領エチベリア氏来校、名誉博士号授与
2001年	4月	外国語学部外国語学科開設
2002年	4月	社会科学部社会科学科を総合政策学部総合政策学科に名称変更
2004年	4月	国際協力研究科国際医療協力専攻博士前期課程開設
2006年	4月	保健学部臨床工学科開設、外国語学部英語学科・東アジア言語学科・応用コミュニケーション学科開設、総合政策学部企業経営学科開設
	9月	図書館改修、コンビニK-Shop 開店
	10月	構内バスターミナル移設、学生食堂・ホール改修
2007年	4月	保健学部保健学科を健康福祉学科に名称変更、保健学部救急救命学科開設
2008年	4月	外国語学部東アジア言語学科を中国語・日本語学科に名称変更、保健学研究科看護学専攻博士前期課程（10年博士後期課程）開設
	5月	学生広場・コートヤードSORA 完成
	12月	ドナルド・キーン氏に名誉博士号授与
2009年	4月	国際協力研究科国際言語コミュニケーション専攻博士前期課程、保健学部理学療法学科開設、保健学部看護学科看護学専攻三鷹キャンパスへ移転、学生支援センター設置
2010年	4月	外国語学部観光交流文化学科開設
2011年	3月	東日本大震災 卒業式中止に
	4月	保健学部作業療法学科開設、外国語学部中国語学科開設
2013年	4月	保健学部診療放射線技術学科開設
2015年	10月	八王子キャンパス最後の杏園祭で「さようなら八王子セレモニー」開催予定



1975年 八王子キャンパス開校
開校当時の校舎。医学部教養課程の校舎として使われました。現在は、学生広場やコンビニ・軽食スペースのラウンジ緑に姿を変えている。



1980年 保健学部研究棟完成
現在もキャンパスのシンボル、通称時計塔として親しまれている1棟が完成。手前のグラウンド脇にはまだ若い杏の木が植えられている。



1984年 念願の「大学発着バス」運行開始
学生、教職員一同心待ちにしていた構内バスターミナルが完成。京王八王子駅から「杏林大学」行きと表示されたバスが運行を開始したときは感激する学生・教職員も多かった。写真は、キャンパスのバスロータリーで行われた開通式。



1988年 3学部となり初めての杏園祭を開催
「知的・素敵・快適」をテーマに3学部初の杏園祭が行われました。オープニングセレモニーでテープカットをする保健学部、社会科学部、外国語学部の杏園祭実行委員長。



1991年 ガーデン丘完成
1階は食堂、2階は学生ホールとテラスからなるガーデン丘。建築家山縣洋（やまがたよう）氏によって設計されたこの建物は、1992年日本建築士事務所協会賞を受賞しました。



1991年 初めてのオープンキャンパス
毎夏の恒例イベント、オープンキャンパスの第1回は4学部合同で八王子キャンパスで行われました。八王子駅前ではチャーターバスを待つ参加者の列。



1996年 八王子キャンパスで初めての卒業式
「卒業式は八王子で」という念願がかない、この年の3月19日、八王子キャンパスで卒業式が開催された。以来、入学式は三鷹、卒業式は八王子で開催することになりました。



2000年 エチベリア元メキシコ大統領に名誉博士号授与
この年、日墨両国の交流に大きな功績を残したエチベリア元大統領を、外務省や民間団体等が日本に招請したのを機に、本学はエチベリア氏をキャンパスに招き、名誉博士号を授与しました。



2007年 ドナルド・キーン氏に名誉博士号授与
本学は日本文学等の研究者、翻訳者として世界的に有名な、コロンビア大学名誉教授のドナルド・キーン氏に名誉博士号を贈ることになり、12月4日、授与式と同氏による記念講演が行われました。



2011年 東日本大震災 卒業式中止に
大雪の入試（1999年撮影）
2011年3月11日の東日本大震災で、八王子キャンパスの交通は大混乱。本学でも教職員は雪かきや受験生への対応に追われました。

2008年 強風の被害（2008年撮影）
強風で倒れたヒマラヤ杉がラウンジ緑を直撃。台風や突風の被害も少なくなかった。

多くの時間を過ごした八王子キャンパス

永原 聡（ながはら さとる）
外国語学部卒業 / 株式会社ユーティエス（UTS 国際教育センター）勤務

私は1991年4月に杏林大学外国語学部の4期生として入学しました。改めて学生時代を思い出すと、何故か授業が終わって親友と杏林坂を下っている光景が鮮明に浮かび上がります。当時は今より多くの竹林があったのではないのでしょうか。マイナスイオンを浴びながら、たくさんの緑に囲まれて楽しい気分を歩いていたと思います。

学生時代、とても多くの時間を八王子キャンパスで過ごしました。土曜日の1限目の授業を履修していた年もありましたが（理由はご想像にお任せします）、授業が終わると3食（第3食堂、現在のガーデン丘）前のスペースで目の前に広

がる緑の稜線を眺めながらのんびりと親友と過ごしたものでした。居心地が良く、すぐに帰ろうとは思いませんでした。

留学や海外研修を取り扱う会社に就職し、杏林大学を担当して20年になります。学生の海外研修の手配、就活シミュレーション（模擬就職活動）等のお手伝いをさせていただきました。ちなみに、昨年は八王子キャンパスに34回伺いました。バスを降り、杏林坂を登ることが年々辛くなっていますが、坂から見上げる丘の上のキャンパスはいつも変わらず温かく迎えてくれます。在学中から数えると24年間通った八王子キャンパスとお別れするのは正直なところ寂しいのですが、私の中には八王子キャンパスの土と木々の香りが染みついています。

最後になりますが、24年間お世話になった八王子キャンパスを心に刻みつつ、井の頭キャンパスで新たな歴史のスタートを切る母校の更なる発展を心からお祈り申し上げます。



八王子キャンパスと共に 教員生活40年

下川 哲徳（しもかわ てつり）
杏林大学名誉教授

八王子キャンパスで医学部開設と同時に、私の杏林大学での教員生活も始まり、40年間お世話になりました。このたびの、八王子キャンパスの井の頭新キャンパスへの移転は、大学の発展にとって喜ばしいこととは言え、一抹の寂しさを感じています。

開学当時は、山の上に4階建ての白亜の校舎があるだけでした。それだけに、自分たちの手で立派な大学を創ろうと、教員も学生も無我夢中でした。

冬は吹き抜ける木枯らしが身に凍み、キジの切ない声を聞くことも一再でなかった寂しい環境とは裏腹に、キャンパスには活気がみなぎり、どの研究室も尋ねて来る学生たちであふれていました。

学生たちとデコボコの地面を平らにしてバレーボールのコートを造ったり、プレハブの道場で柔道や剣道をした時の、共に流した汗や喜びは、今でも忘れません。

その後、一貫教育が始まり医学部は三鷹キャンパスに、代わりに保健学部が八王子キャンパスに来ました。社会科学部（現 総合政策学部）や外国語学部もスタートしました。キャンパスが行き交う学生で賑わうようになると、開学当時を知る者として、隔世の感を禁じ得ませんでした。

全ての学部の学生から看護専門学校生まで授業を受け持ち、尋常でない忙しさの中で、ただただがむしゃらに突き進んだものでした。今となっては、八王子キャンパスを舞台に、それを果たせたことが何よりの幸せでした。

思い出は尽きませんが、移転も時代の趨勢であり、今後は、新キャンパスでの益々の発展を心から願い、見守っていきたくと思っています。



我が子二人を育てくれた 八王子キャンパス

安平次 勝（あんべいじ まさる）
元社会科学部（現 総合政策学部）杏会会長

杏会（父母会）長を引き受けたおかげで楽しい思い出ができました。子供二人はともに杏林OBです。姉が楽しそうにキャンパスライフを送っているのを見て、弟も杏林に入学しました。

姉はバスケの同好会、弟はサッカー部でキャプテンをしていました。二人とも今でもクラブやゼミの多くの友人と付き合いがあります。

子供達の杏林受験のきっかけは、元教授の江幡良平先生でした。私が大手企業の人事部長だった頃、江幡先生と知り合いました。先生が「杏林は先生も熱心で校風もとても良い」など杏林についていろいろ教えてくださったことで、私も安心して子供を受験させました。

姉の入学後、大学から杏会の役員就任の要請があり、少しでもお役に立てばと受諾しました。姉弟の在学中7年間、役員を務めたおかげで、田久保忠衛先生はじめ著名な先生とも懇意になり、大学マネジメントの難しさも知り、私にとっても貴重な経験でした。

大学祭は7年間皆勤しました。展示を熱心に説明する学生と意見交換するのが楽しかったです。超一流ホテルで行われた謝恩会も卒業生や保護者には良い思い出になったことでしょう。

その後、息子が連れてきた結婚相手は我が家にも遊びに来たことのある同級生でした。

二人が卒業して20年弱、姉は家族とともに米国シカゴ駐在、弟は広告代理店で頑張っています。二人とも杏林での大学生活が気持ちの支えになっているようです。ファミリー皆からの言葉を送ります、「杏林大学よありがとう！」

四季の彩り

八王子キャンパスの魅力の一つが美しい自然。このキャンパスで過ごした誰もが、思い出の風景を心に刻んでいることでしょう。



1979年



2008年



杏林坂



ガーデン丘



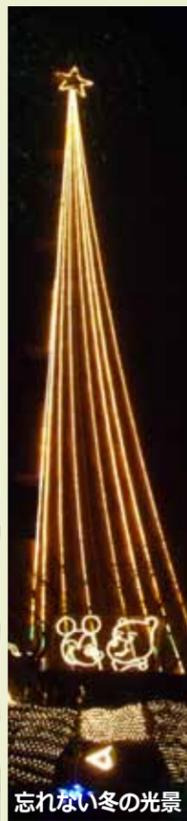
銀杏並木と通学バス



コートヤードSORA



杏園祭



忘れない冬の光景

杏林見聞録 ⑤

みうら ひでゆき
総合政策学部 三浦 秀之 講師

第5回は、東日本大震災の被災地石巻市を故郷に持つ総合政策学部の三浦秀之講師です。山や田畑に囲まれた地元川の上地区は、被害の大きかった沿岸地区の住民たちの防災集団移転地となりました。同じ県内でも生活習慣や文化が異なる住民同士が、いかにして共に調和したコミュニティを構築するか、もともとまちづくりや地域の活性化に関心があった三浦講師が活動する、まちづくりプロジェクト「石巻・川の上プロジェクト」について伺いました。



略歴：宮城県石巻市出身。上智大学比較文化学部（現 国際教養学部）卒業、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士・博士課程修了。英国ウォーリック大学 CSGR 客員研究生、アジア開発銀行研究所研究員、早稲田大学アジア太平洋研究センター助手を経て杏林大学へ。現在、日本国際問題研究所若手客員研究員、石巻・川の上プロジェクト運営委員長。

専門家集団によるプロジェクトメンバーを結成

震災後、甚大な被害を受けた石巻市大川・雄勝・北上の沿岸部3地区の住民は、私の故郷である内陸部の川の上地区に建てられた仮設住宅に移り住み、3年後には同地区の防災集団移転地に移ります。もともと400世帯いた川の上地区は、3年後には800世帯が暮らす地域になります。とはいえ、「陸の民」と移り住んだ「海の民」では互いの文化や生活習慣も大きく異なります。何より被災の度合いが大きく違います。知らない者同士がコミュニティをつくるためには何かが必要でした。

新旧住民の代表者を軸に、県内外から私の仲間の建築家、デザイナー、ライターなど様々な分野の専門家が集まり運営委員会を構成しました。まちづくりに重要な要素として「ヨソモノ」「ワカモノ」「バカモノ」とよく言われますが、まさしくそれを体現したプロジェクトメンバーでした。私は運営委員長として、地域住民と専門家をつなげたり、地元の人たちの

声を聞いたり、復興庁や市役所との調整役を引き受けました。

ヒアリングでわかった大事な課題

仮設住宅は居心地が悪い、震災前からまちに愛着と自信がない、おしゃれな場所がない…住民からは様々な声が寄せられました。そこで、家でも仕事場でもない居場所、教育、まちへの愛着の3本柱をコンセプトにコミュニティの拠点となるような“サードプレイス”をつくらう、と考えたのです。

ユニークなのは全て自分たちの手で作りあげたことです。助成金に頼らず、住民たちで資金を出し合い、かつて農協の倉庫だった築80年の建物を改築しました。地元の大工の指導のもと漆喰やペンキを塗ったり、壁板の杉材を焼くなど、住民やボランティアの共同作業で、今年4月にコミュニティの拠点となる「百俵館」が誕生しました。

図書館や中高生の学習スペース、昔から土地に根付く隣家に上がり込んでお茶を飲む「お茶っこ文化」の発展形であるカフェやイベントスペースの機能を持つ施設です。百俵館の名前は、「米俵百俵の精神」に由来します。「百俵の米も、食えばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる」皆の気持ちと期待が込められた場所なのです。

若い人の力は無限

百俵館では、地元の中高生を対象に英語と数学を教える寺子屋を行っています。現在30名の中高生が通っていますが、彼らと地域の課題を解決していきたいと思っています。

住んでいるからこそ分かる問題、出来ることがある。若者が少ないこの地域では、彼らへの期待が大きい。彼らもまた、地域をつくっていくのは自分たちだという自覚が生まれるだろう。

それには何より教育です。課題解決能



百俵館で学ぶ地元の中高生と先生役の地元の方。元気で日々何でも吸収する彼らは地域にとって大きな存在

力、付加価値を生み出すクリエイティブな力の根本は教育にあると思っています。まさに米百俵の精神です。

私が考える百俵館と地域のミライ

百俵館は、地元の人たちが互いを支え合う拠点になってほしいと思っています。もちろん僕らの中で、震災は悲しいことで忘れられないこと。でも今は、「地域を継承する」ことを一番考えています。震災という同じ体験を経て、生きること真剣に向き合ってきた結果、地域は固く結ばれるようになりました。

地元を離れた人が「フェイスブックで見た」と立ち寄ってくれる、「東京よりいいじゃん」そんな言葉は僕たちを勇気づけ、地域の可能性を感じる瞬間です。

いま、私は地域の人的リソースを調査しています。自分たちが持つ資源、潜在的な能力を発揮できれば、よりよい地域ができると思っています。

住民がまちに愛着や自信を持てる、自立した魅力的な地域をつくるためにはどうすべきか、こうした問題意識を今後も追求したいと思っています。

復興支援活動が学生の意識を変える

昨年、本学の学生を募り復興支援ボランティアをしています。東日本大震災において最も被災した地域でもある石

巻を訪れ、五感で感じながら地元の人の話を聞きます。学生たちは、問題意識に目覚め、主体的に動くことが必要と気づくようになり、意識が全然違ってきます。昨年、非可住地域に指定された石巻市大川地区で亡くなられた人たちの慰霊のための竹燈籠を作りました。竹燈籠の材料の竹は、山から切り出してくるため、若者の力なしにはできないのです。

いま被災地で求められているのは住民の希望を叶えるソフト面の支援です。今年は、石巻市役所復興政策部で復興状況や課題を聞いた後に、沿岸部へ移動し活動を実施します。大川地区で竹燈籠を作ったり、雄勝地区で海岸に寄せられたままのがれきを片づけます。

人が住まなくなると陸も海も荒れる。若者の力が非常に求められています。

自分の力を信じて挑戦してほしい

私のゼミでは被災地や途上国を訪問し、そこで生活している人から話を聞かせてもらいます。環境の違いを感じ、自分に何が出来るかを考えることで、自分の役割が見えてきます。気づきから、想像力を働かせ、主体的に動く。何もなかったところ、ゼロをイチにする力を呼び起こすのです。

多くの人との出会いや体験から自分の役割が見えてきます。その時は自分の力を信じてチャレンジしてほしいです。

卒業生リレー

最先端技術を採り入れた国産旅客機
MRJの開発にかける

なかざき あつし

中崎 篤志 (社会科学部 2000年卒)

法律政治コース卒業。航空自衛隊で10年間勤務したのち、国土交通省航空局航空機技術審査センターへ。現在、国産旅客機MRJの開発に携わる。



航空自衛隊から国土交通省航空局へ

卒業後、政府専用機の運航に携わる仕事への興味から航空自衛隊に入隊しました。

航空自衛隊では、PKO(国連平和維持活動)やUNDOF(国際連合兵力引き離し監視軍)等の国際平和活動(人員・物資輸送)に供する輸送機の整備(機体を分解して隅々まで点検・修理・改修等を行う)や領空侵犯機に対する防空任務につくための戦闘機のライン整備などを約10年間行っていました。

私の転機は2007年でした。この年、三菱重工業が国産旅客機の開発に着手することが決まり、機体の設計に係る国の技術審査要員が公募されました。

政府専用機への想いは残しつつ、旅客機的设计・製造の段階から携われるチャンスと考え、航空分野経験者採用枠から国土交通省航空局に入省しました。

MRJ 初飛行に向けて

現在、県営名古屋空港に隣接する空港事務所で、三菱航空機が開発を進めるMRJの安全性の審査をしています。

航空機の安全は、飛行性能、機体の強度・構造、エンジン、搭載する装備品の機能に係る数千に及ぶ基準をクリアすることで保障されます。

私は、それらの基準への適合性を示すための、疲労強度試験や飛行試験、地上試験データ、各種解析等の審査をしています。

一般的に、航空機の開発には5、6年を要すると言われていますが、MRJの開発及び審査は開始から8年が経過しています。

いよいよ今秋、飛行試験機の初飛行が予定されており、航空機の安全を確保する「型式証明」の取得へ向け着実に計画が進められています。

仕事をとおしてグローバルな社会を実感

国外でも運航予定のMRJは、欧米航空当局の「型式証明」も取得しなければなりません。そのため海外の担当者と意見を交換する会議や電話会談も頻繁に行われます。

私が初めて参加した米国シアトルでの当局間会議は、英語によるプレゼンテーションが予定されていました。想定されるディスカッションから会食の席でのスモールトーク等々の準備で英語づけの毎日に苦労しました(現在も苦労中)。以来、某社の聞き流すだけの英語教材を購入し、忠実に実行していますが成果のほどは…(笑)。

国のプロジェクトに貢献できる喜び

MRJの開発は、国が700億円を投じるプロジェクトであると同時に、機体の安全性は国が保障するため、私たちが行う技術審査の一つ一つにも重責を感じます。

在学生リレー

今しかできないことを
思いきり楽しみたい

おおい はるか

大井 遥香 (保健学部臨床検査技術学科2年)



親戚に医者が出たので、医療の仕事に対するイメージは身近なものでした。学校で行われる健康診断の尿や血液の検査にも興味があり、医療と検査が結びつく臨床検査技師を目指して勉強中です。

学業と共に力を入れるボランティア活動

大学のボランティア団体「feel」に所属し、八王子市を中心に活動しています。2014年度に部長になったのを機に、東北の被災地

や来年度開設する井の頭キャンパスのある三鷹市での活動を始めました。

今年2月、宮城県石巻市で震災復興活動をされている総合政策学部の三浦秀之先生プロジェクトに参加しました。具体的には地域の人達と、4月にオープンを控えていた図書館カフェ「百俵館」の周辺に石を敷き詰める作業をしました。被災地の現状を自分の目で確かめ、震災当時の話を直接

聞くこともできました。

5月には三鷹市国際交流ウォークラリーの運営スタッフとして、受付やコースの誘導、ごみの分別などを行いました。いずれも初めての試みでしたが、良い経験でした。

在学中にできることを精いっぱい

8月に再び石巻を訪れ、「百俵館」の運営を手伝います。

10月には、三鷹国際交流フェスティバルに運営スタッフとして参加します。外国の方も沢山参加するイベントなので、言葉の壁を越えて気持ちを伝えられるよう精いっぱいサポートしたいと思います。

顧問の総合政策学部の渡辺 剛先生や部員、職員の方々に支えられて、様々な活動ができることに感謝しています。

他に、障がいのある方の自立を支援する

一方、MRJが国際的に評価されることになれば、航空産業の発展や航空宇宙開発に携わる一人としては大きな喜びです。

在学中の思い出

入学と同時に硬式野球部に入りました。北海道育ちの私にとって、夏の八王子キャンパスの練習は地獄のような思い出です。

4年次には膝靭帯の怪我等で、部長の内藤高雄先生や今も親交のある仲間にも面倒をかけたのですが、一番の思い出は、東京新大野球リーグで念願の1部昇格を果たし、正選手ではありませんでしたが、憧れの神宮球場(第2球場ですが)に立てたことです。

母校苫小牧東高校での教育実習も、野球部の指導が体験できた貴重な時間でした。

橋本ゼミでは刑法・刑事訴訟法を学びました。現在、航空法を傍らに仕事をしていますが、法律の読み方・解釈等の基礎を習得できました。ゼミ活動で大阪刑務所を見学した際、足をのばして京都観光をしたのも懐かしい思い出です。

迷うなら、まずは一步踏み出そう

就職活動では、目標を絞りきれず、企業や官庁を30近く受けました。第1目標の進路でなくても、まず目の前に拓けた道を進んでください。やがて様々なことに対する価値観が磨かれ、次に目指す社会との係わり方が見えてきます。迷う前にまずは進んでみることを、私の経験から皆さんにお伝えします。

施設で福祉アルバイトをしています。昨年、移動支援の資格を取得したので、利用者の方と立川や新宿など都内の各地へ出かけ、食事介助や排泄介助等を行っています。利用者の方が急に車道に走り出してしまい、ヒヤッとしたこともありましたが、福祉も医療も人の命に関わる点で共通していると痛感した出来事でした。

私が、こうして充実した毎日を送ることができるのは、決して当たり前なことではなく、両親のおかげだと日々感謝しています。

これからも勉学に力を入れ、今しかできないことを楽しんでいきたいと思っています。



石巻・百俵館での石敷き作業

Club 八王子・三鷹両キャンパスではクラブ、サークルとして73団体が活動しています。今回は、アイスホッケー部と軽音学部を紹介します。

● アイスホッケー部

クールで激しい氷上の格闘技



身につける防具は10キロを超える。プレー中の激しい接触に負けない体力が必要なスポーツ

部員は三鷹と八王子キャンパスで学んでいる医学部と保健学部の学生22人(うちマネージャー7人)です。

氷上練習は、東伏見や東大和のスケートリンクを貸切り、スケート靴と防具を着けて実技をします。外部コーチの指導のもと、シーズン前はスケート練習やシュート、パスなどの基礎練習、大会が近づくとシステム練習や実戦形式の練習をします。陸上練

習はキャンパスごとに、ランニングやウェイトトレーニングを行い基礎体力をつけています。井の頭キャンパスが開設する来年度からは、共に練習できることが楽しみです。

出場大会は、秋に開催される関東大学アイスホッケーリーグ戦と年末の東日本医科学学生総合体育大会です。両大会とも上位リーグ進出を目標にしています。

アイスホッケーは、「氷上の格闘技」と呼ばれる激しさと、戦略的なチームプレーが試合を制する頭脳的なスポーツです。多くの攻守のシステムがあるため、まずは陸上で動きを確認し、氷上で実際に行うのですが、これは予想以上に困難です。また、チームにスーパープレーヤーが一人いるよりも、全員がプレーを熟知し、考えを共有し、同じ目標に向かって練習することが強いチームを作ることに繋がります。まだ日本ではマイナーなスポーツですが、多くの可能性をもった魅力的なスポーツなので、ぜひ皆さんにも興味を持ってもらいたいです。

(部長/医学部4年 安藤 稔彦)

● 総外 軽音学部

セッションで広がる新たな音楽の世界



総合政策、外国語、保健学部の学生80人が所属する軽音学部は、普段は八王子キャンパスの「ミーティングルーム緑」で練習をしています。

パートは主に、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードですが、鍵盤ハーモニカやリコーダーを取り入れたこともあります。演奏ジャンルはロックやジャズ、J-POP、ヘヴィメタル、インストゥルメンタルのほか、自ら作詞作曲したオリジナル曲など様々です。ライブなどが近づくと、バンドごとに曲を選び、練習をします。

ライブは、新歓ライブ、七夕ライブ、学園祭、シャッフルライブなど年6回行って

います。シャッフルライブのバンドメンバーは、開催1ヶ月前に初心者、経験者関係無く、各パートをくじ引きで決めます。

異なる音楽のスタイルを持った人と組むこともあるので、演奏技術や音楽の知識が広がります。お客さんに意外性のあるセッションを楽しんでもらえる、面白いイベントです。

学園祭とシャッフルライブ以外の会場は、八王子市内のライブハウスです。ライブ前は、会場との打ち合わせや楽器・アンプの準備、揃いの衣装や小道具を作るなど様々な準備がありますが、当日の成功を思い浮かべながら、全員で協力して行います。

軽音楽の魅力は、色々な人と演奏することで、自分の知らない音楽の世界を知り、演奏の楽しさを実感できることだと思います。この魅力に気が付いたらずっと音楽を続けたいと思います。

これからも素晴らしいステージをお客さんに届けられるよう練習に励みます。

(副部長/外国語学部3年 小川 慎平)

学部・大学院トピックス

医学部

2023年問題（国際的質保証）へ新カリキュラムを構築 臨床実習、英語教育を充実

今から5年前、全国の医学部に衝撃が走りました。アメリカ・カナダ以外の医学部出身者がアメリカで医業を行う際、その資格を審査する機関である ECFMG (Educational Commission for Foreign Medical Graduates) が、「2023年以降は国際基準で認証された医学部出身者以外は受験資格を与えない」との条件を打ち出したからです。

日本の医学教育のレベルは決して低くないのですが、患者に接する「臨床実習」の期間は他国に比べて短く、国際認証基準を満たしていないことが大きな課題となっています。そこで医学部では、来年度の入学者から国際基準に適合させる新しいカリキュラムを構築しています。

医学教育学教授で国際基準導入準備小委員会の赤木美智男委員長に伺いました。



臨床実習の充実はどのように進められるのですか

現在は5・6年次で実施している臨床実習の時期と期間、および内容等の充実に関する検討を行っています。

臨床実習の開始は5年次4月から、4年次11月に前倒しすることを予定しています。これにより6年次の診療参加型実習（クリニカルクラークシップ）を含めた臨床実習の期間は現在の47週間から66週間になります。医療現場で過ごす時間が大幅に増えることで臨床能力の更なる向上が期待されます。

卒前教育カリキュラム全般の質の向上もはかります。机上の学習に重きを置いた今までの教育から、患者と良好なコミュニケーションがとれ、身体診察や臨床推論、症例プレゼンテーションをし

かり行う能力を持った医師を養成したいと考えています。

国内外の臨床実習の違いは何でしょうか

海外で臨床実習を行い、高い満足度を感じている学生もいます。これは日本と欧米の医学教育制度の違いも影響しているようです。日本では、指導医の診療行為の見学が主で、学生自身が直接診療に関わる機会は多くありません。一方、欧米では、指導医の監督下でどんどん診療に参加できるため、診療の基本的なスキルを習得できます。

医療の体制にも違いがあります。日本の医師ならやらなければならない仕事の多くの部分は看護師など他の職種に任されているので、指導医は学生の指導に重点を置く余裕があるようです。

英語教育の充実も欠かせませんね

これまでも増して、国際的な舞台で



左：症例カンファレンスは医師の知識や経験を学生が共有する貴重な機会。右上：少人数で行う医学英語の授業。右下：海外クリニカルクラークシップの参加者報告会。今年度は英語習熟度などの選考基準をクリアした15人の学生（昨年は25人）が海外病院での実習に参加しました

活躍できる人が育って欲しいと思います。そのステップの一つが海外でのクリニカルクラークシップですが、そのためには日常生活や医療現場でコミュニケーションがとれる英語力が必要です。

医学部では26年度に1・2年次に導入した少人数教育を、27年度からさらに3・4年次にも導入し、5年次の選択科目も合わせて、5年間の一貫した密度の高い英語教育を行っています。国内で医療を行うにしても、医学文献の多くは英語であるため、医学知識の獲得に英文読解力は必須と言えます。

充実した臨床実習にするためにはどのようなことが必要でしょうか

アメリカでは、カレッジで4年間とメディカルスクール前半の2年間で、一般

教養と基礎医学および臨床医学を学んだあと、臨床実習を2年間行います。

教育の年数で見ると、この臨床実習期間は日本の初期臨床研修の期間と相同です。実際、アメリカの臨床実習は日本の臨床研修に近いと聞いています。

アメリカで行われている臨床実習は、経験する症例も多く、座学で学んだ疾患を実際の患者を通して再び学べるため全体的な医学知識を維持できます。

一方、従来の日本の臨床実習では経験する症例が少なく、経験できなかった疾患は忘れてしまうこともあるようです。

こうした現状を改善するため、臨床実習の到達目標をより明確に設定し、各診療科のローテーションや実習内容についての検討を進めています。

保健学部

総合病院クラスの最新医療機器を備えた実習施設が整う 診療放射線技術学科



導入が予定されている最新の医療用検査装置。左：東芝製3テスラMRI装置（Titan-3T）。上：GE社製Hybrid型SPECT/CT装置（Infinia-8 Hawkeye-4）

診療放射線技術学科は医療機関において、放射線を用いた検査や治療を行う診療放射線技師を育成する学科です。

平成25年4月に開設され、現在は1期生である3年生60人が初の臨床実習に向かうところまでできました。

次年度開設する井の頭キャンパスでは、教育、環境面をさらに充実させるために、大きな計画を立ててきました。

国内トップレベルの機器を備えた施設で行う本格的な実習

1つ目は、本邦で医療用に認可されている最高磁場の3テスラのMRI装置の導入です。3テスラMRI装置を保有していない病院が多い中、教育・研究専用で設置する施設は極めて稀です。本学科では最

新・最強のMRI装置を導入することになっています。

もう1つは核医学装置です。現在ではSPECT/CTとPET/CTという装置が普及してきていますが、2台の設置はスペース的に難しい状況でした。そこで本学科ではHybrid型SPECT/CTという、SPECT/CTとPET/CTを1台でできる装置をフルスペックで導入します。これにより学生は両方の装置の特性を、実習を通して学ぶことができます。

その他、X線CTやフルデジタル乳房X線撮影装置、血管造影撮影装置、3次元画像処理装置など、総合病院なみの大型医療機器が揃い、充実した実習が可能となります。

4年間の学び・1年生から専門分野を学ぶ

1年生では語学や教養科目のほか基礎医学系科目や生命倫理などを学びます。高校の知識を確認しながら「放射線物理学Ⅰ」などの専門基礎分野の科目も受講

します。

2年生では専門基礎と、より高度な専門教育が始まります。2年生で難関の第1種放射線取扱主任者試験の合格者もおり、学生達は誇りを持って頑張っています。

3年生では高度専門教育のほか臨床実習があります。法令改正による診療放射線技師業務拡大に伴う教育内容の追加にも既に取り組んでおり、臨床経験豊富な教員によって実践的な実習を実施しています。

4年生では卒業研究、国家試験対策のほか、就職や進学に備えます。

新キャンパスで最新の設備と高いレベルの教育を提供し、国家試験合格はもちろん、知識のみならず人間性豊かな倫理観を持った人材を育成します。

（診療放射線技術学科教授 山本智朗）



直腸用バルーンカテーテルを用いた注腸検査模擬実習（八王子キャンパス）

総合政策学部

グローバルな仕事をめざす学生のための新しいプログラム GCP (グローバルキャリアプログラム) スタートへ

「今は必ずしも英語が得意ではないが、将来グローバルな仕事に就きたい」、そんな学生のために新しいプログラム、GCP (Global Career Program) が2016年度からスタートすることになりました。

GCP の特色

グローバル社会の様々な課題を英語で考え、行動する力をつける

このプログラムは経済、国際関係、福祉といった総合政策学部が提供する専門科目に加えて、グローバルに活躍するビジネスパーソンにとって不可欠な各種批判的思考、異文化理解、プレゼンテーションの技術なども英語で学びます。

そして、こうした知識や技術を仕事で活

かせるようになることを目指しています。そのために、4年間で段階的に力をつけるプログラムを用意しています。これらの学びを通して、社会の出来事を色々な角度から英語で考え、行動できる力を身につけます。

4年間の学び

基礎から応用まで、段階的に力をつけるプログラム



1年春学期～2年春学期

GCPへの参加は1年次の春と秋に募集を行います。

プログラムへの参加が決まった学生は、海外留学やグローバルなキャリア開発に向けて、少人数による英語学習とビジネスパーソンに求められる基本的技術の習得をただちに開始します。

英会話の授業では、座学形式の講義に加え外国人講師によるマンツーマンのオンラインレッスンも受講します。また、ビジネスでグローバルに活躍するゲスト講師を迎え、さまざまな業界における最新の動向について生の声を聴くチャンスもあります。

英語科目
Oral Communication
Academic Writing
Recent Topics in English
Business Communication

関連科目
Critical Thinking
Global Career Development
Communication for Business
Japan Studies
Public Speaking



2年秋学期 (～3年春学期)

英語力のさらなる向上と国際的な感性を伸ばしていくため、半年または一年間、原則として海外の協定校に留学します。



3年春学期 (または秋学期) ～

3年次以降にはビジネスや経済など、将来、役に立つ専門分野を“英語で”学びます。

授業は従来型の座学形式のほか、学生たちが主体的に考えて、議論し、アウトプットするアクティブ・ラーニング形式も積極的に取り入れていきます。

グローバル専門科目	
Introduction to Business	Introduction to Economics
Introduction to Global Health Issues	Introduction to International Relations
Monetary Policy and Financial System	Fiscal Policy and Tax System in Japan
Culture and Business	Global Health and Social Justice
History of Innovation & Science	Marketing
	Interdisciplinary Seminar

グローバル社会で確実にキャリアを積み、 ビジネスチャンスに挑戦できる人材を育てたい

日本社会のグローバル化は進んでいき、今後更に加速していくことが予想されます。GCPでは、そのような状況において、学生一人ひとりがしっかりとキャリアを積んでいけるための基礎力の養成を目指します。

欧米はもちろん、成長著しいアジアや大きな可能性を秘めているアフリカなどでのビジネスチャンスに果敢にチャレン



ジできるようなタフでしなやかな人材を育てたいと考えています。

(総合政策学部教授 北島 勉)

外国語学部

教育融合による新しい Generalist の育成 学部間連携科目「コミュニケーション概論 -1」



学部間連携科目は、他学部の教員による授業で、杏林大学の特色を活かした教育の一つです。外国語学部の1年生の必修科目「コミュニケーション概論-1」の前期15コマのうち3コマで他学部教員による授業が行われました。

7月23日に授業をした医学部 小林富美恵教授と、本科目を担当する八木橋宏勇准教授に聞きました。

学部間連携科目の意味とこれから

医学部教授 小林富美恵

授業を振り返って

昨年に続いて本科目を担当しましたが、今回は「この寄生虫だらけの世界?! ～This wormy world!～」と題して講義をしました。

現在、寄生虫疾患は日本では稀な疾患ですが、世界に目を向けると10億人以上の人々がこの疾患に苦しんでいること、寄生虫は以前とは異なる形で現代社会に蔓延していることを紹介しました。

世界には多様な生活様式や文化・習慣が存在します。寄生虫疾患という事例を通して、広い視野を持つことや異なる視点で物事を見ることの大切さを知ってもらえれば、この講義は成功といえます。

学生同士の連帯感を育む 新キャンパスの可能性に期待

医学部と他の3学部は、長い間、地理



研究室から持ち込んだサナダムシの標本を初めて見る学生に、形態を詳しく説明する小林教授

的に遠い場所に位置していました。Gate to gateで10分間で結ばれる来年度以降は、まずは心の融合、即ち、杏林大学で学びやがて国際人として世界に羽ばたく‘同志’の連帯感を育むことが必要でしょう。その為に、初年度の学生においては学部の垣根を取り払い、同じ学舎・教室で、同じテーマで学ぶ機会をなるべく多くすると良いのではないかと思います。

学生に学んでほしいこと 「コミュニケーション概論-1」担当 外国語学部准教授 八木橋 宏勇

物事を多角的に捉えられる 多様な観点を涵養してほしい

新しい体験をすると「視野が広がった」と口にする学生は多いのですが、具体的に自身の内面で何が生じたのか問うても答えはなかなか返ってきません。

未知の世界を垣間見て知識を拡充するだけではなく、医学部・保健学部・総合政策学部の先生が示された「現象を説明するための考え方」を自身の興味関心にも積極的に適用してほしいですね。

つまり、思いついたことに飛びつくのではなく、「アプローチの引き出し」を増やし、物事を多角的に捉えられる多様な観点を涵養してほしいと思っています。

世の中には 様々な学問の力が満ち溢れている

学問の世界は学際的になってきていますが、その成果を大学教育に活かす態勢は十分に成熟しているとは言えません。

4学部の学生がコンパクトに交流できる井の頭キャンパスという空間は、開放系な学びを展開できる可能性を秘めています。

教育融合を促進する各種体制の構築はもちろんですが、学生が「世の中には様々な学問の力が満ち溢れている」ことを早い段階で体感すること、学生の知的好奇心に応えられるよう各学部教員が協働して研究を推進し、学生に学際的学修の範を示すことが特に必要だと思います。

コミュニケーション概論で行われた保健学部、総合政策学部教員の授業

日程	講義テーマ/担当	講義内容
7/2	“仕事”や“友人”とのコミュニケーション 保健学部教授 島 幸夫	医師や看護師、臨床検査技師など医療従事者同士がコミュニケーションをとることは患者さんのために大切。自身の経験から、研究や趣味などを通じて培った人間関係がよきコミュニケーションを生み、よい仕事につながる事を示した。
7/16	おかしな選択の行動経済学～なんでそれを選ぶの?? 総合政策学部教授 西 孝	従来より経済学は、人間の行動を合理的なものとして定式化してきた。しかし他方で、人間はしばしば不合理ともいべき選択をするのみならず、そこには規則的なバイアスがあることがわかってきた。つまり、人間の行動は、単に不合理だけでなく、「予想通り」不合理なのだ。認知心理学と経済学が協働して、数々の実験を通じてこれらの問題を解明してきたのが行動経済学である。その結果の一部を紹介し、そこから得られる含意を導いた。

キャンパス情報 ⑭ ライティングセンター



バージニア喜多：米ミシガン大学、インディアナ大学フォトウェーン、テンブル大学ジャパンキャンパスで学ぶ。修士(TESOL)。2013年杏林大学で教える。

ライティングセンターの利用法を教えてください

原則として事前予約が必要で、月曜から木曜迄の2限から4限にかけて開放しています。実際は学生の都合に応じて臨機応変に対応しています。

これまでにのべ約80名の学生がライティングセンターを訪ねてくれました。最近、外国語学部の学生の利用頻度が非常に高くなっています。

どんな指導が受けられますか

英語で書くことなら、何でもOKです。目的に応じた書き方を指導しています。

留学を控えた総合政策学部や外国語学部の学生たちには、ホームステイ先へ送る手紙の書き方や留学先で行うプレゼンテーションの原文作成を指導しました。

面識のない相手への手紙は最初のコンタクトになるのでとても重要です。プレゼンもポイントを押さえると随分印象が変わります。

他に、ニュージーランド留学に必要な大使館へ提出する手続書類の作成、エッセイや卒業論文作成の指導等々何でも対応しています。

ピアチューターの役割を教えてください

4年生と3年生のピアチューターはい

今年1月、八王子キャンパスの国際交流プラザにライティングセンターが開設されました。

英語論文の書き方から書類や手紙の書き方まで様々な指導が受けられるライティングセンター。スタッフは、ネイティブスピーカーの教員と訓練を受けたピアチューター5人です。

同センターの**バージニア喜多**特任講師にお話を聞きました。

ずれも留学経験があるので、事前に準備する課題のアドバイスができますし、留学に関する様々な相談にも応じています。留学で楽しい思い出を作ってもらえるよう、ピアチューターの学生たちもいろいろ工夫しているようです。

学生へのメッセージをお願いします

英語で書くという作業は、そう難しいものではありません。

皆さんは長年英語を学んで多くの言葉や英語の知識があり、それを使うことができます。もし英語を書くことで苦労していたら、気軽にライティングセンターを訪ねてください。

ライティングセンターは井の頭キャンパスでリニューアルオープンします。三鷹キャンパスとも近くなるので、より多くの学生に会えることを楽しみにしています。



テキサス A&M 大学のゲストピアチューターの指導を受ける学生 (右)

数字で見る杏林大学 ⑭

355?

これは杏林大学の女性研究者の人数です。本学の研究者は、教員、医員、実験助手、レジデントなど総勢1,000人ほどですので、女性研究者の比率は約35%となります。

本学の女性の研究教授・臨床教授・教授は35人で教授全体の約21%、他大学と比較しても多いと思われます。

働く環境など様々な理由があると思いますが、日本では男性の家事、育児等への参加が世界的にみてもまだ少ないようです。

本学は、少子高齢化と人口減少が進



カウンセリングは、水・金曜日に行っています。日常生活や人間関係、ストレス、子育ての悩み等の相談に臨床心理士が対応し、解決に向けて共に考えます

む日本で、社会に貢献する研究活動を担う女性研究者のライフイベント(出産・育児・介護等)への支援とより良いワークライフバランスを実現するために力を注いでいます。

本学は平成26年度、文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」に採択され、男女共同参画推進室を設置しました。同室ではライフイベント支援制度、出産・子育て・介護ナビ、ハラスメント防止、組織運営への女性参画拡大、女子学生に対する進学相談体制などの整備を進めています。

特に研究支援員制度は、女性研究者がライフイベントに係る期間の研究活動の継続を支援するため、学部生や大学院生等を研究支援員として配置し、データ入力や実験補助、資料収集、文献検索などをしてもらう仕組みです。

平成27年度前期は9人の研究者がこの支援を受け、そのうち2人は配偶者が女性研究者である男性研究者でした。

この制度は研究者が直接助かるばかりでなく、研究者自身のマネジメント能力も向上します。また、支援員の学部生・大学院生にとっては、研究に係ることで自身が研究の道に進むきっかけともなるなど、教育効果も期待できます。



金田一 教授の研究室から ⑭

金田一 秀穂 (きんだいち ひでほ) : 1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語講師。1988年より杏林大学外国語学部で教鞭をとる。

日本語表現演習

今まで、日本語はどのような仕組みであるか、人は言葉で何をしているのか、というような授業を長くしていたのだが、今学期初めて、じゃあ具体的に、言葉をどう使ったらいいのか、という授業を受け持った。「日本語表現演習」という。

目論見としては、就職を控えた3・4年生をあてにしていたのだが、実際に集まったのは、この間まで高校生だったピチピチの1年生ばかり。

毎週作文の宿題を出して添削をした。彼らは事実だけを、情緒を排して文章化することに慣れていない。そこで、本を読んでその要約を求めることにした。内容を正確に理解し、要領よくまとめること。それだけ。感想や意見を混ぜてはいけない。

それだけではつまらないので、もうひとつ、あまりやったことのないことをしてもらった。毎回ひとつ小ネタを見つけてきて、教室でお話しをするというのだ。

作文は、身の回りの世界を言語に変換して、それを文字言語で表す行為である。その音声言語版である。日本の国語教育では、作文は盛んだが、皆の前で話すことはあまり指導されない。

教育学でも研究されていない。英語ではスピーチというクラスが大学に入ってからもある。アメリカの政治家や牧師さんたちは言うまでもないが、アカデミー賞の授賞式での俳優さんたちは、とても上手に話す。日本では、話すことがあまりにも疎かにされている。作文ばかり熱心である。文字言語と音声言語の違いだけで、何も変わりはないはずなのだ。

しかし、そんなクラスは受けたことがないだろう。こちらだって初めてで、どう指導したらいいのか、よく分からない。頼りないことおびただし。必ず一つか二つ、笑いを取ることに。という指示だけ出した。最初は恥ずかしがっていた学生たちが、そのうちいくらか話せるようになっていった。効果はともかく、楽しんでくれたのではなかろうか。最後の日には、皆で写真を撮るくらいにまとまった。

いい授業は教師が作るのではない。いい授業は学生が作るのだ。と、学期終わりの成績をつけながら、しみじみ思うのだった。



健康ひとくちメモ ⑭

腰が痛いと感じたら



40歳になって腰痛で外科医を辞めた友人がいる。30代後半から慢性的腰痛に悩まされ、コルセットを着けていても手術中に痛みで手をとおすことが多くなり一線から退かざるを得なかった。

さらに長時間の車の運転や診療で長く座っていることも辛くなり、整形で診てもらったがX線写真に大した異常はなく、リハビリに努めなさいと言われてたそうである。

外科医に限らず、看護師や理学療法士など立ち仕事をする人には慢性腰痛が多い。腰痛というと椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、腰椎すべり症、脊柱管狭窄といった整形外科治療の対象を思い浮かべるかもしれないが、しびれや麻痺が起らない限り、手術になることは少ない。だからといって薬で完治するわけでもないし、慢性化してからではリハビリも奏功しない。

大切なのは「腰が重い、痛い」と感じたら、そのままにしないで対策を講じることである。

対策で重要なのが姿勢である。慢性腰痛者には骨盤前傾あるいは腰椎前弯と表現するが、腹を前に突き出した、いわゆる出尻姿勢がみられることが多

い。これを正すのは意外に簡単で、膝を曲げることに努めればよい。寝るときは横向き(側臥位)で膝を曲げるか、仰向けでも膝裏に枕を入れたりすれば膝は曲げられる。座っている姿勢でも足台を置いて足を載せるなどして膝を抱え込み気味にするといい。立っているときには少なくとも一方の足を台に載せれば片膝は曲げられる。

腰痛体操も効果がある。前かがみで物を持ち上げるとテコの逆原理で背骨には物の重さの10倍近くの負荷がかかる。これを和らげるのが腹筋と背筋である。

体操ではとくに腹筋強化がポイントとなる。仰向けで膝を曲げて臍をみようとするだけでも腹筋や腸腰筋は鍛えることができる。もちろん、上半身を起こすことができれば効果は倍増する。筋トレだけでなく、膝を抱え込んで背筋をストレッチすることも効果的である。

いずれにしても体操は継続が大切なので、腰痛を経験した人には軽快したあとも習慣として続けられたい。

(岡島 康友 : 杏林大学医学部リハビリテーション科・教授)

おかじま やすと

慶應義塾大学医学部卒業。国立療養所箱根病院、米国アーカンソー医科大学フェロー、慶應大学付属病院、東京専売病院、慶應大学月が瀬リハビリテーションセンターを経て、2001年より杏林大学医学部リハビリテーション医学教室教授。



編集を終えて.....

- 2016年春、杏林大学は一つの大きな節目を迎えます。井の頭キャンパスの新たな1ページと、語り尽せないほどの思い出が詰まった八王子キャンパスとの間で、第14号の編集はこれまでにない難しいものとなりました。(有)
- 入職まもなく、八王子で行われた秋入学式の取材に三鷹から出向いた時のこと。時間に余裕をもって出かけたつもりでしたが、行楽の車で高速は大渋滞。会場に着いた時、式典はすべて終わっていて無人でした。途中で写真撮影を依頼しておいたので事なきを得ましたが、両キャンパスの遠さを初めて実感した八王子キャンパスの思い出です。(ふ)
- 母校八王子キャンパスの思い出は、宿題や読書、居眠りをしながらの電車とバスで往復4時間の通学。クラスに地方出身者や留学生がいて、自分の世界が少し広がったこと...。今年の杏園祭では「さよなら八王子セレモニー」が開かれるので恩師や友との再会を楽しみにしている。今夏、愛知で開かれた全国教職員卓球大会の年代別シングルスで準優勝。周囲の理解があり出場できたことに感謝。(酒)

2015年度 大学行事・イベント (平成27年9月~平成28年3月) ※予定

9月12日(土) 卒業式(秋)	12月29日(火)~1月3日(日) 冬季休暇
9月15日(火) 入学式(秋)	1月4日(月) 授業再開
9月15日(火) 授業開始	1月18日(月) 授業終了
10月10日(土)、11日(日) 杏園祭(八王子キャンパス)	3月12日(土) 井の頭キャンパス落成式
10月10日(土) 杏祭(三鷹キャンパス)	3月15日(火) 卒業式
11月11日(水) 創立記念日	

*医学部の授業開始・終了、冬季休暇はこれとは異なります